

令和元年度 学校図書館活用実践報告

新潟市立大鷲小学校

1 大鷲小学校の児童の実態

(1) 読書センターとして

- ・朝読書や図書館利用の時間は進んで本を読んでいるが、自発的に図書館を利用する児童は少ない。
- ・高学年になるにつれ、読書の量や質の個人差が大きくなる傾向にある。
- ・図書館が特別教室棟3階の一番奥にあり、児童が通いやすい場所ではない。図書館前廊下の掲示板も児童の目に触れにくい。

(2) 学習センターとして

- ・各学年での図書または図書館利用はあるが、「学校図書館活用年間計画」が担任に周知されておらず、計画的な利用に至らなかった。
- ・図書を活用した授業の実践記録がないため、前年度の有効な活用の仕方を引き継ぐことができなかった。

(3) 情報センターとして

- ・担任と司書が連携し、学習に必要な図書資料を揃えた上で、児童が必要な情報を探すことができている。
- ・自分で必要な図書資料を見付けたり選んだりすることができない児童、資料を見付けても情報を活用することができない児童が多い。

2 大鷲小学校の取組

(1) 読書センターとして 「児童が来館する図書館に」

① 図書館マスコットの友達イラストコンテスト

1学期、情報委員会の活動として、「図書館マスコットの友達イラストコンテスト」を行った。情報委員会発信で全校が参加できる企画ができ、図書館へ意識を向けることにつながった。



キャラクターを考えるために、自ら図鑑を調べ、写真を参考に考える児童。



考えたキャラクターを友達に紹介したりアドバイスをもらったりする児童。

ランチルームや体育館へ向かう1階廊下の掲示板。全校が通るため図書館とつなぐ役目は効果的だった。



掲示板 ↔ 図書館

自分も参加したことから、投票にも興味を示す。投票はほぼ全員が参加した。

選ばれたキャラクターは1年間「としよだより」に載り、図書館の掲示に使用する。

② マスコットのしおり探し・くじ引き

11月の読書週間で、情報委員会がマスコットのしおり探しのイベントを企画した。情報委員がお薦めする本にしおりをはさみ、見付けた人はその本を借りて読み、見付けたしおりをもらうことができる。しおりには、1学期に決定したマスコットが印刷されている。



活動 ↔ 図書

しおりを見付ける活動に参加することで、借りたことがない本と出会い、読むことができた。

くじ引きは、読書週間に本を借りると1日1枚くじ引き券がもらえる。くじを引くと、「プラス1冊借りられる券」や情報委員手作りのしおりが当たる。



活動 ↔ 図書

「くじを引きたいから本を借りよう」と、図書館へ向かう児童が増えた。そして、くじで当たった「プラス1冊借りられる券を使おう」と本を借りて読む姿が見られた。

自分が参加できる活動 → 「情報委員会の企画楽しそう！」 → 情報委員会への関心
 → 「選んだキャラクターがあった！」 → 図書館への関心
 → 「読んだことがない本だな」「もう1冊読んでみよう」
 → 読書への意欲喚起

③ おすすめブックツリー

各学期、葉の形のカードに、名前とお薦めする本の題名を書き、掲示する取組を行った。



自由参加だったが、たくさんの児童が参加。本の表紙と共に掲示。立ち止まって友達が紹介するカードや表紙をじっくり見る姿が見られた。

掲示板 ↔ 図書館

ブックツリーで紹介された本は図書館に展示。目に止まりやすく興味をもって借りていた。



④ お薦めの本の紹介

全校児童、職員がお薦めする本の紹介カードを1階廊下に掲示。職員がお薦めする本は図書館に展示。児童が次々と借りていった。



興味をもって紹介カードを読んでいた。

掲示板 ↔ 図書館



本との出会いのきっかけ → 「こんな本があるのか」 → 本への興味の広がり
 → 「わたしも読んでみよう」 → 読書への意欲喚起

⑤ 「のぞいてみよう〇〇の本」～テーマ本の設置～

各学期1回、「図書館活用年間計画」にあるテーマに沿った本の紹介コーナーを設置した。



各学期の学習に関連したテーマを選択 → 本により知識を広げる機会を提供
クイズや調べ方を掲示 → 児童が本を手に取りやすい環境を整える

⑥ 「おすすめの本」の設定

教科書で紹介されたり司書が選んだりした良書20冊をカードで紹介。読んだ児童の名前と感想を紹介した。

⑦ 情報委員会による選書

本や図書館について発信する立場の情報委員に本への興味をもたせる。

学年別分類	書名 / 作者	読んだ日	感想
1	290 こ 新幹線のたび コマカスル	4/16	○
2	440 て はじめてのうめうめぼん てづかあけみ	4/12	○
3	460 も 生きものは円柱形 葉野益広	4/19	○
4	648 な みらくるミルク 中西健夫	5/12	○
5	911 し 空にでーんと手をのばせ 新沢としこ	4/11	○
6	913 え 少年探偵 シリーズの中から1きつ 江戸川乱歩	6/14	○
7	913 お 口で歩く 丘徳三	4/24	○
8	913 み 雷わたり 宮澤賢治	3/1	○
9	923 ち 白いゆゆう團いりゆう 賀正	4/17	○

児童は本を前にすると飛びつき、あっという間に決まった。



多種多様な本と出会う機会・きっかけ
本やそれを読んだ児童の紹介
→ 読書の質向上へつながるように

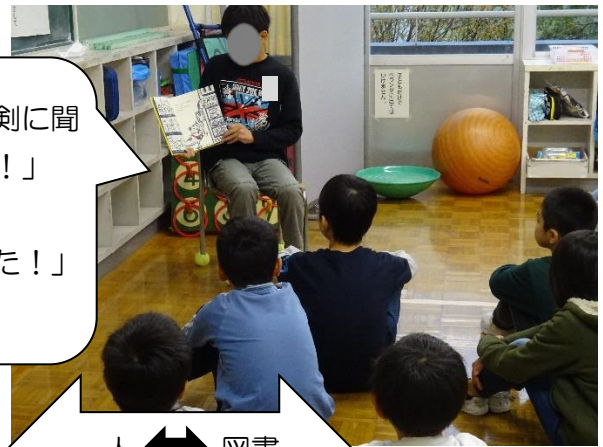
⑧ 読み聞かせ

読書週間では縦割り班で6年生と職員が読み聞かせを行い、学年部では読み聞かせボランティア「おはなしかご」の方が読み聞かせを行った。



「みんな真剣に聞いてくれた！」
(6年生)
「楽しかった！」
(2年生)

6年生は司書から読み聞かせの指導を受け、互いに聞き合って練習をした。



人 ↔ 図書

「おはなしかご」の方からの読み聞かせでは、どの学年もじっくりとお話の世界に浸ることができた。図書館にはない初めて聞く絵本のお話もあり、最後まで集中して聞く様子が見られた。



いろいろな人からの読み聞かせ

- 新しい本との出会い
- 本への興味の広がり

⑨ 貸し出しカード

今年度から、1年生から6年生までの読書冊数の記録が一目で分かるようなカードを作成。ラミネートをかけ、ゴムで止め、出席番号のタグを付ける工夫をして、見やすく取り出しやすくした。



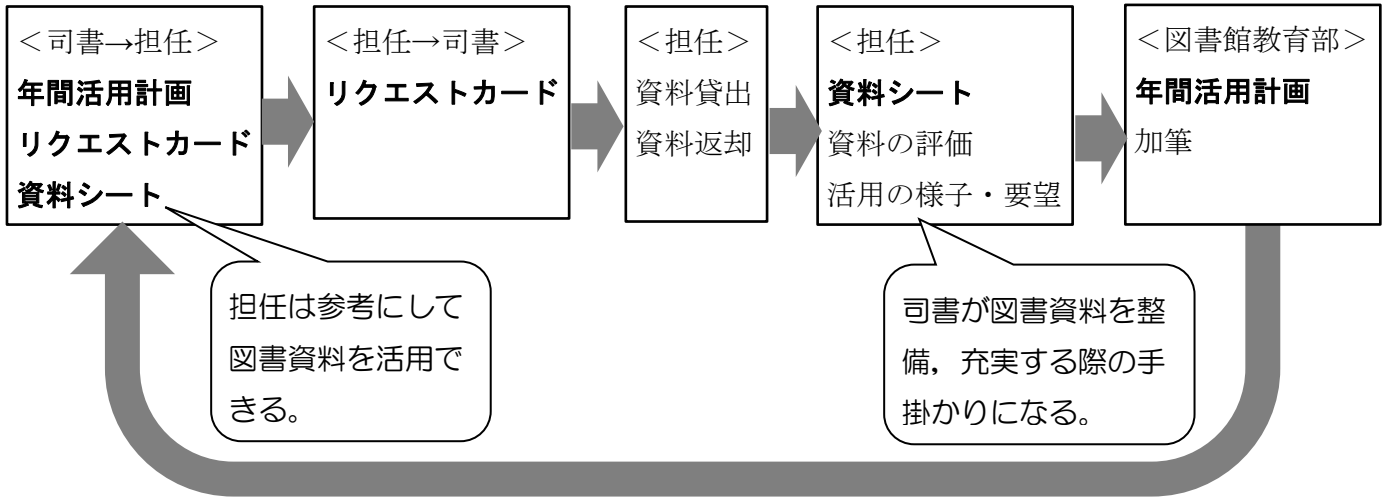
読書冊数の記録を可視化
→ 読書意欲の喚起



(2) 学習センターとして「担任(授業)と図書館の連携を」

① 学習により有効な図書資料を提供する連携サイクル

「学校図書館活用年間計画」、「リクエストカード」、「授業で活用した資料シート」を活用し、担任(授業)と図書館の連携を図り、学習により有効な図書提供ができる環境を整えた。



リクエストカード

こちらです！

～図書室より～

2学期に学習で利用する本がありましたらお知らせください！

・事前にお知らせいただいた本を、図書室で用意します。

・学校内の資料で不足する場合は、公共図書館からも借りられますのでご相談ください。上記月曜までにお知らせいただける「オレンジBOX」などの資料を借りられる確率が高くなりますので、お早めにご相談ください。

・教務室の図書の上に「オレンジBOX 図書リスト」(授業で活用できる資料がセットになっているボックスのリスト)がありますので、ご自由にご覧ください。

使用学年	年	教科	冊数
単元名			
具体的な書名または内容			
冊数		使用開始時期	

資料シート

● 授業で活用した資料 ●

活用時期 2019年6月
利用学年 3年生
教科/単元名 総合「笹団子について」

請求番号	タイトル	サブタイトル	著者名	出版社	冊数
095か	河内さくら おふくろの味	みんなが大好きな郷土の味を食べてみよう	河内 さくら	新潟日報事業社	自校 1
383き	緑土料理	ボブリア情報館	竜崎 英子	ポプラ社	自校 1
095に	にいびたのおかず	郷土の食文化と料理	高橋真理子	開港舎	自校 2
291ひ5	日本全国行ってみたいな	あなご、ふなひら、	石川・瀧山・島野・新田・山根・野島・船橋	東 照島	自校 1
383た2	日本の「食」とくらし	食文化ごとに体験しよう	竹内 由紀子	学研	自校 1
	新潟県観光・文化検定 公式テキストブック 改訂版				自校 3

自校資料 9冊
借入資料 0冊

● サイトの紹介 ●

店名	URL
田中書店 「笹たんご物語」	https://www.dangoya.com/monoqatar/
江戸だんご 「端午の節句には笹たんご・柏餅」	https://e-dango.com/2019/post-932/
新潟森林書庫 「新潟森林書庫の笹団子ストーリー」	http://www.omochi.co.jp/blog/blog-1304/

活用の様子・要望など
・3年生が利用するには難しい図書もあったこと、そのため昨年度は担任が児童に内容を伝えていたことを司書から担任へ伝え、指導する際の手参りにしてもらった。併せて利用しやすいサイトも司書から担任へ紹介した。
・司書の話を聞いて、担任が読み聞かせをしたり説明を加えた。授業では、食裡の方を指して笹団子作りを行った。食裡の方が話した内容が量なることがあり、予め図書の内容に載っていた児童にとっては食裡の方の話を理解しやすかった。
・図書の有用の仕方や昨年度の様子を司書から聞くことができ、図書を学習で活かすことができた。

教科・単元名
図書情報
サイト情報
活用の様子・要望

各学期始業前に3点セットで配布。
学習活動を考える、
図書の有効な活用を
考える際の参考に。

学校図書館活用年間計画 (3) 学年

月	調べ学習のための知識・技能	教科・単元	学習に有効な図書
4	・図書館のマナーとまじり ・日本十進分類法 ・資料の運び方 ・図鑑の使い方 ・索引の使い方	国語 「図書館へ行こう」 理科 「しぜんのかんさつ」	「学習科学図鑑 野外植物」(学研) 「小学校の図鑑NEO 植物」(小学館)
5	・国語辞典の使い方 ・付箋の利用 ・要約の仕方 ・公共図書館の利用	国語 「国語じてんの使い方を知ろう」 読んで、感想をつたえよう 「自然のかくし絵」	「海の図鑑生物」(誠文堂新光社) 「わたしたちのさくせん」(福音館書店) 「花になったカマキリ」(新日本出版社)
6	・メモの取り方 ・ゲームの決め方 ・資料の運び方 ・出典と著者の記入 ・情報カードの記入方法 ・メモの取り方	国語 「インタビューをしてメモを取ろう」 国語 「調べて書こう、わたしのレポート」	<図鑑、百科事典> 「授業で活用した資料リスト」参照
7	・図鑑の使い方 ・資料の運び方	理科 「チョウを育てよう」「ぐんぐんのびろ」 国語 「ゆうすげ村の小さな旅籠」 国語 「俳句に親しもう」 国語 本は友だち	「フタボタおひら!」(きんぎょのついで) (ポプラ社) 「アゲル、キジシロのついで」(すずき出版) 「授業で活用した資料リスト」参照 「ちびまる子ちゃん」(毎日放送) (集英社)
9	・図鑑の使い方 ・表やグラフでのまとめ方	理科 「こん虫を調べよう」 社会 「働く人とわたしたちのくらし(買い物しらべ)」	年間活用計画

「学習に有効な図書」欄に加筆

担任：資料を手掛かりに要望
使ってみる
評価・活用の様子・要望
→次年度に生かされる
→ねらいに沿った資料の整備、充実
→授業の実践記録の蓄積

②連携サイクルの実際

3年生「物語のしかけを探そう ゆうすげ村の小さな旅館」

物語のしかけを使った本の紹介ブックを作ろう。
児童一人一人がシリーズの本が手に取れるといいなあ...



担任

7	・図鑑の使い方	理科 「チョウを育てよう」「ぐんぐんのびろ」	「コツがまるわかり! 生き物の飼いや 虫を飼おう①」(ポプラ社) 「アゲハ モンシロチョウ」(すずき出版)
	・資料の選び方	国語 「ゆうすげ村の小さな旅館」	「ちびまる子ちゃんの俳句教室」(集英社)
		国語 「俳句に親しもう」	
		国語 本は友だち	

年間活用計画

リクエストカード



司書

6冊しかない! 作者, 茂市さんの本は2冊のみ...
市立図書館から借りますよ。

28冊借用 (茂市さんの本は20)
学校図書館と合わせて34冊



一人1冊手に渡る。
じっくりと作品の世界や活動に浸ることができた。



担任

資料シート

活用の様子・要望など
 ・校内にある図書に合わせ, 市立図書館から借りたことで, 児童一人一人が本を手に取れる形となり, 児童が「物語のしかけを使った本の紹介ブック」作りの活動に浸ることができた。
 ・シリーズで揃えてもらったことで, 全体の指導がしやすかった。
 ・教科書の物語の続編だったので読みやすく, 授業以外でも本を手に取る児童が見られた。



司書

茂市さんの「つるばら村」シリーズの本を購入。

図書資料の整備, 充実へ

7	・図鑑の使い方	理科 「チョウを育てよう」「ぐんぐんのびろ」	「コツがまるわかり! 生き物の飼いや 虫を飼おう①」(ポプラ社) 「アゲハ モンシロチョウ」(すずき出版)
	・資料の選び方	国語 「ゆうすげ村の小さな旅館」	授業で活用した資料リスト 参照
		国語 「俳句に親しもう」	
		国語 本は友だち	「ちびまる子ちゃんの俳句教室」(集英社)

年間活用計画

「資料リスト」があることを加筆。
次年度に生かされる。



(3) 情報センターとして「児童と図書館、児童と図書館の連携を」

①レファレンスカードの作成、周知

児童が、自分の学習に必要な図書を自ら問い合わせるレファレンスカード（児童に分かりやすいようにカード名は「リクエストカード」とした）を作成した。

としま 図書 リクエストカード

ねん 年	なまえ 名前
しら 調べたいこと	
もっとくわしく調べたいこと	
.	
.	
.	
としまかん 図書館に本が	ある ない
本がある場所	() 類 () 類 () 類
ぶんいばんごう 分類番号	() () ()

※太い四角の中を書いたら図書館にある箱へ入れるが、しづや先生にわたしましょう。

カードは、図書館だけでなく教室にも置き、いつでも問い合わせできるように。

5 年 名前

調べたいこと こうせきやほうせき

もっとくわしく調べたいこと

- ・たんじょうせき
- ・せいしつ
- ・どこにあるか

図書館に本が ある ない

本がある場所 4 類 0 類 類

分類番号 (450 う) (450 か) (450 せ)

(22/4/6類) (22/4/7類) (22/4/8類)

詳しく聞きたいのは図書室に来たときに声をかけてほしい。

一覧表になっているものは確認できずおぼろげだ。

借り切っています。

担任と司書、それぞれから利用について話し、周知を図った。



カードは、図書館だけでなく教室にも置き、いつでも問い合わせできるように。



5年担任は、レファレンスカードを使う場面を意図的に設定した。

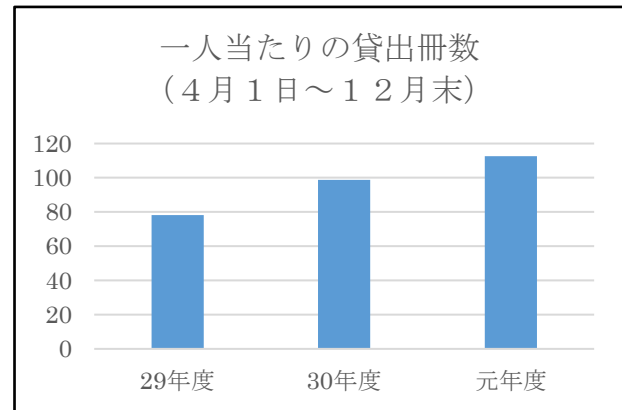
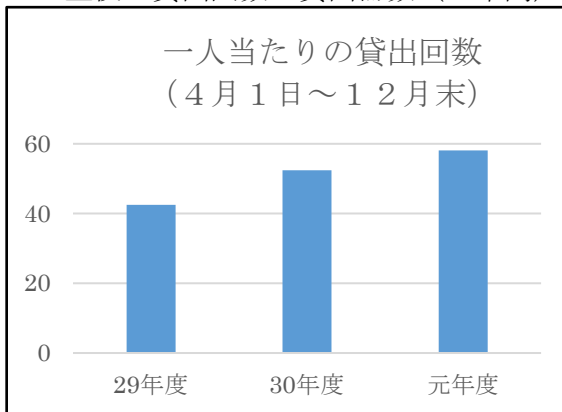


必要なときにいつでも問い合わせ → 資料を収集、選択する機会が増える
カードが司書との橋渡しに → 調べる内容や資料について司書に相談しやすい

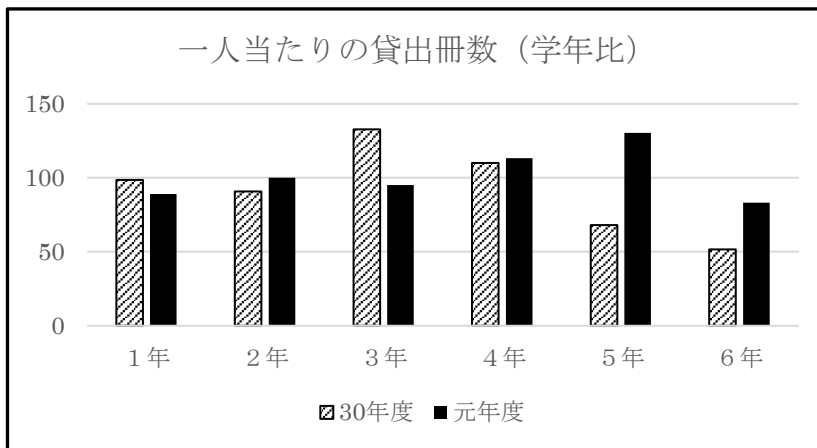
3 成果と課題

(1) 成果

I 全校の貸出回数・貸出冊数（3年間）



II 各学年の貸出冊数（2年間）



III 授業における図書提供数

30年度	16件
元年度	20件

- ① 1階渡り廊下に掲示し、児童の顔が思い浮かぶ工夫、本の様子が分かる工夫を行った。その結果、図書館に対する意識の高まり、様々な本への興味の広がりにつながった。
- ② 資料の整備、蓄積により、授業者も学校図書館を利用しやすくなった。
- ③ 児童と図書館、児童と司書をつなぐ取組ができ、児童が情報の収集、選択できる環境が整った。
- ④ 図書館の掲示板、本棚、貸出カードを改善し、環境を整備することで利用しやすい図書館になった。

(2) 課題

- ① 今年度は「児童が来館する図書館に」「本への興味を広げるために」というねらいで様々な取組を行った。実態に合った図書館利用の工夫を継続していく必要がある。
- ② 来年度教科書が替わるため、連携サイクルをどのように行うのか検討し、今年度の取組を生かしていく。
- ③ レファレンスカードの利用を授業でどのように位置づけるのか提案していく。児童が自分で図書を活用できたと実感の味わえる授業やその支援の在り方を探る。